

<牧師室から>

新型コロナ感染拡大を受け、命の主に仕える教会のわざとして信じつつ教会堂に集まることを休止してから、6月初めで2か月が経ちます。ようやく後述の報告欄にありますように、6月7日から教会堂での礼拝再開を迎えようとしています。まだ礼拝のみではありますが、皆様とお会いできる時を楽しみにしています。イースター礼拝から始まった在宅礼拝中心の教会生活は本日の聖霊降臨記念日（ペンテコステ）をもって一つの区切りとなります。皆様が再会に向け、祈りを合わせてくださいましたこと、また外出もままならず顔を合わせることも難しい中、お互いの安否を気遣い、祈りを合わせてくださいましたこと、心より感謝申し上げます。皆様の祈りの輪はまさに聖霊をお迎えするための輪だったのではないかと思います。再開後、そして再会后、この聖霊の交わりの豊かさをより豊かなものとしていけるよう、引き続きご協力いただきたく、よろしく願いいたします。

<在宅礼拝にあたって>

・「招詞」

招きのみ言葉です。

この礼拝に招かれていることを感謝し、聖書のみ言葉に聴きましょう。

・「聖書」

御言葉をゆっくり味わいましょう。音読するなどの方法もおすすめです。

・「感謝と献金の時」

献金は、感謝と献身の表しとして捧げられるものです。1週間の出来事を思い起こし、感謝と応答の祈りをささげましょう。

・「賛美」

歌詞を読んで味わうなどでも結構です。ユーチューブに収録されている賛美に声をそろえるなどの方法も考えられます。

・「メッセージ」

「メッセージ」をお読みください。

・「祈祷」

メッセージから受けた恵みや、祈りの課題を含め示されたところを祈りましょう。

・「頌栄」

牧師の祝祷を受けることはできませんが、「ベネディクション」の賛美を通して主の祝福を受けましょう。

<在宅礼拝プログラム>

- ・招 詞 詩篇 57 篇 9 節
- ・賛 美 新生讃美歌 344 番 「聖なる み霊よ」
- ・感謝と献金の時
- ・主の祈り
- ・聖 書 使徒行伝 10 章 9～16, 44～48 節
(口語訳新約聖書 197 頁)
- ・メッセージ 「わたしたちとおなじように」
- ・祈 禱
- ・賛 美 新生讃美歌 244 番 「救い主にぞ われは仕えん」
- ・頌 栄 新生讃美歌 679 番 「ベネディクション」
- ・黙 禱

<メッセージ>

聖書教育は、本日の聖霊降臨記念日（ペンテコステ）を覚えて、本日の聖書箇所を選定しています。教会学校再開を待ち望みつつ、私たちも共に耳を傾けましょう。ペテロが昼時に空腹を覚えていたのはなぜか…南小倉教会牧師の谷本仰先生が、ペテロが身を寄せていた皮なめし職人シモン(9:43)との関係性について言及されていたことがあります。皮なめし職人は律法に禁じられている死体に触れること(レビ 11:39)が仕事だったと考えられます。だとしたらユダヤ人ペテロとしては、シモンたちにお世話になっていたが彼らと同じ食卓に着くことや同じ食物に手出しすることを避けていたのかも知れません。今までキリスト教会も伝道ということで、どこか似たような対人関係を築いてきてしまったところはないでしょうか。相手無くしては今の自分が無かったにもかかわらず、相手のためとしつつ一方的に相手に悔い改めを要求し、相手の生き方のみに問題を見ていたところはなかったでしょうか。『ペテロは言った、「主よ、それはできません。わたしは今までに、清くないもの、汚れたものは、何一つ食べたことはありません」。すると、声が二度目にかかってきた、「神がきよめたものを、清くないなどと言ってはならない」。(14~15 節)』

本日の聖書箇所では 17~43 節が抜けていますが、そこでペテロは普段なら食卓を共にしない人たちとの出会いへと、“聖霊(御霊)によって”、招き入れられます。(19~20 節) そしてキリストの言葉として、彼らとの出会いを感謝します。そして先の“天から降りてきた汚れた生き物たち”の幻をペテロはこう解釈しています。『ペテロは彼らに言った、「あなたがたが知っているとおりに、ユダヤ人が他国の人と交際したり、出入りしたりすることは、禁じられています。ところが、神は、どんな人間をも清くないとか、汚れているとか言ってはならないと、わたしにお示しになりました。お招きにあずかった時、少しもためらわずに参っ

たのは、そのためなのです。…」(28~29節)』

ペテロの福音理解、その解き明かしの“途中で”聖霊が降りました。(44節) メッセンジャーの言葉のすべてが了解される前に、その場にいる人々のすべてに聖霊が降りました。そして聖霊が降ったしるしは“異言”の賜物でした。異言の賜物については使徒行伝2章4節のような“異国語”という解釈もあるようですが、現代では人の理解を超越した発声として理解されていることも少なくないようです。伝道者パウロは異言の賜物についてお互いが理解し合えるよう配慮することを求めています(1コリント14:27~28)、本日の聖書箇所ではそのような配慮が要求されている様子はありません。パウロの言うように、教会がお互いの理解に努めることは大切です。しかし、わかり合えるようになったから仲間として認める、という順番とも違います。共にわかり合おうとし始めるならすでに仲間です。共にわかり合おうと試行錯誤し続けていくならずに仲間です。

ペテロはそれまで食卓を囲もうとしなかった人々との出会いを喜び、共に食卓を囲むことになった出会いを聖霊のみわざとして喜びます。しかしその喜びはこの後、くり返し試練に遭います。使徒行伝11章、15章、いや、それ以降も、ペテロたちの喜びは本当に神から認められる喜びだったのか、初代教会はくり返し問い直されていきます。しかしその問いはまた、逆方向にも投げかけられることとなりました。今まで神から認められていると思ってきたルール、慣習、秩序などの縛りが、本当に神から認められ、喜ばれていたのか、という福音的な問いです。こうして今まで自明だと思ってきた事柄について、新たな対話が生み出されていくことになりました。そして聖霊はそのような歴史的なみわざをもって今も、新たな出会いのための新たな対話に向けて、私たち教会を招いてくれているのではないのでしょうか。

<報告>

*新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が5月25日に解除されましたので、教会としては、これまで休止していた教会堂での礼拝を **6月7日より再開します**。

*当面の集会は礼拝のみとしますが、教会学校、祈禱会ほかの諸集会については、今後の状況を見つつ検討、再開の時期が決定しましたら改めてお知らせいたします。

- ・日本バプテスト連盟 HP に聖書教育誌 4月～6月号が掲載されています。本誌が手元になくても在宅での教会学校の学びが可能ですので、ぜひご活用ください。

HP アドレス <http://www.bapren.com/>

聖書教育誌 4月～6月号 p.4 に、松藤一作さん執筆「ペンテコステメッセージ」がありますので、ご覧ください。

